

日本結晶学会平成 27 年度総会議事録

日時：平成 27 年 10 月 17 日（土） 14：00-15：00

場所：大阪府立大学 C1 棟学術交流会館・多目的ホール

出席者：124 名、委任状：133 名

議事

報告事項

1 会務報告

庶務幹事から会務に関する報告が行われた。

2 会計報告

平成 26 年度決算，平成 27 年度予算執行状況，平成 28 年度予算案が報告された。リガクフ
ァンドの今後の予定について庶務幹事から説明があった。

3 AsCA 関連報告

AsCA 評議員の栗栖庶務幹事より，AsCA2015（開催日程：2015 年 12 月 5－8 日、開催場所：
インド・コルカタ）の開催予定が報告され、積極的な申し込みが求められた。

4 日本学術会議報告

庶務幹事より、日本学術会議結晶学分科会・IUCr 分科会合同分科会での大型施設計画・大規
模研究計画に関するマスタープラン策定の活動状況と今後の予定について報告された。

5 IUCr 関連報告

庶務幹事より，評議員会で報告された IUCr の Executive Committee の現状報告がなされた。

6 その他

総会終了直前に、千田行事幹事より平成 27 年度結晶学会ポスター賞の選考結果が発表された。

審議事項

1. 日本結晶学会の法人化

禾会計幹事より，日本結晶学会法人化を提案するに至った背景と，評議員会・幹事会での
審議の経緯が報告された。質疑応答の後に，2 月に先行して設置する新法人に 3 月末日まで
に全会員と資産を移行する方針が全会一致で承認された。

2. 個人会員会費値上げについて

禾会計幹事より，平成 28 年度から個人会員会費を値上げするに至った背景と，評議員会・
幹事会での議論の経緯が報告された。全会一致で平成 28 年度からの個人会員会費値上げが承
認された。ただし，初年度は法人移行にともない事業年度が 2 ヶ月ずれることに配慮した金
額となることが併せて説明され，承認された。

3. 名誉会員の推戴

庶務幹事より，坂田誠会員を名誉会員に推戴する提案があり，全会一致で名誉会員に推
戴された。

引き続き日本結晶学会名誉会員推戴式，日本結晶学会賞受賞式が行われた（写真）。



写真．名誉会員推戴式および日本結晶学会賞授賞式後の写真

総会資料：

日本結晶学会名誉会員の推薦書

坂田誠会員

坂田誠会員は、中性子回折による非調和熱振動の研究により東京教育大学から理学博士の学位を授与され、名古屋大学工学部の助手として任用されました。その後、学術振興会長期派遣留学生、客員研究員として英国ハーウェル原子力研究所で研究を進め、英国シェフィールド大学理学部の助手に着任されました。約5年間の英国での研究の後、名古屋大学工学部助教授に就任し、同教授を経て名古屋大学工学研究科教授として定年退職されるまで、X線および中性子散乱・回折による回折結晶学の分野の研究に尽力されました。名古屋大学退職後は高輝度光科学研究センター客員主席研究員として放射光を用いたX線構造研究の普及に尽力されています。坂田誠会員の研究は、中性子回折による非調和熱振動と構造相転移の研究、非晶質合金の構造研究、半導体多層膜および半導体表面の構造研究、マキシマムエントロピー法による精密結晶構造解析の研究、およびこれらの研究を遂行するための装置開発など、結晶学の広い範囲に渡っています。

坂田誠会員は、平成元年より世界に先駆けマキシマムエントロピー法（MEM）による精密結晶構造解析の研究に特に力を入れられ、構造モデルを用いずに、観測データに合致する電子密度分布あるいは核密度分布を直接求めることを可能にしました。この新しい方法により、シリコンの共有結合電子、氷の水素結合電子、ルチルの非調和熱振動などの詳細な構造に関する情報を得ることに成功しました。マキシマムエントロピー法の導入により回折結晶学の新しい局面を切り拓くことに貢献したことから、1992年に日本結晶学会より日本結晶学会賞を授与されました。坂田誠会員は、マキシマムエントロピー法による精密結晶構造解析を様々な材料に応用し、材料研究に貢献するために、論文誌上での手法の公表とプログラムの作成・配布を積極的に行なわれました。また、国際結晶学連合のMEMプロジェクトのプロジェクトリーダーを務められるなど広く方法の普及に努められました。2008年には、これらの業績が我が国の科学技術に関する研究開発の顕著な成果と認められ、文部科学省より文部科学大臣表彰科学技術賞を授与されました。

坂田誠会員は、日本結晶学会の評議員として長年の間学会の企画・運営にあたってこれしました。2012～2013年度には日本結晶学会の会長を務め、学会の発展に尽力されました。会長任期中に2014年を世界結晶年に制定することが国際連合総会で決定され、世界結晶年日本委員会副委員長として世界結晶年の活動にも尽力されました。1997年から日本学術会議結晶学研究連絡委員会の委員を務められ、2001年から2003年まで同委員会の委員長を務められました。2002年には同委員会委員長としてスイス・ジュネーブで行われた第19回国際結晶学連合(IUCr)総会において、総会の日本への誘致演説を行ない、第21回総会の大阪誘致を成功に導かれました。

以上のように、坂田誠会員は、X線、中性子線を利用した回折結晶学の分野で具体的な成果を示すとともに、その手法を関連科学分野に広めるために大きく貢献されました。このような長年の結晶学の発展に活動されたことに感謝するため、坂田誠会員を日本結晶学会名誉会員として推戴することを提案いたします。

略歴

1975年 2月 名古屋大学 工学部 助手
1978年 12月 英国シェフィールド大学 理学部 助手
1980年 11月 名古屋大学 工学部 助教授
1995年 4月 名古屋大学 工学部 教授
1997年 4月 名古屋大学 大学院工学研究科 教授
2008年 3月 名古屋大学定年退職 名誉教授
2008年 4月～ 高輝度光科学研究センター 客員主席研究員